



ええやん！東近江

(R 8.5.2 8 発行)

令和7年度第2回 第2層協議体交流会かわら版

令和7年7月4日に第1回第2層協議体交流会を実施したところ、「他の協議体の話も聞きたい」「交流会を継続してほしい」とのお声をいただき、令和7年12月9日に第2回第2層協議体交流会を実施しました。

今回も2地区の事例発表とグループ懇談を行いました。また、市内のケアマネジャーも参加し、協議体メンバーと専門職の意見交換の場にもなりました。



《事例発表》

南部地区『地区vc“コンピス”の1年間の歩み』

発表者：なんぶ未来会議 亀田さん、服部さん



気兼ねなくふらっと立ち寄り、何かしたい！が実現できる場を目指し、“コンピス”（スウェーデン語で仲間）を立ち上げました。

催し物は決めず、来た人たちが思い思いに過ごせるようにしています。小物づくりを楽しむ人や、手作りお菓子を差入れしてくれる人など、様々な人の“もちより”を楽しんでいます。

南部地区が目指す“ほどよいしがらみ”に向けて、つながりたい時につながれる機会をたくさん作ってきます。

愛東地区『地域のお宝マップ作りと学生カフェFikaの応援』

発表者：愛東くらしの会議 北邑さん、楠神さん

日常のさりげない見守りや優しい気遣い、声かけやちょっとした助け合い、わたしたちはそんな“地域のお宝”をさがし、冊子やリーフレットにて全戸配布を行いました。現在、愛東の良さを未来へつなぐために、愛東のお宝マップを作成しています。

また、愛東中学校の生徒が「自分たちでカフェを運営し、多くの人と交流し、人間関係づくりに慣れたい」という思いを受け、愛東くらしの会議で中学生カフェFikaの活動を応援しています。



《参加者の感想》



- 愛東の発表にあったような”お宝マップづくり”などは取り組んでいきたい。
- 南部地区の取組のように、肩をはらない、ゆるい集いを目指したい。
- どの地域にも”おせっかい”できる方、ボランティア意識のある方がおられ、人財を発揮する人とのつながりがキーポイントだと思った。
- 様々な地区の取組みを共有することで、より良い取組みを作り出すことが出来ると思った。

- 若年層が決して地域に興味がない訳ではない。時代背景と共に余裕がない毎日、負担のない活動のあり方を考えることが必要だ。
- 地区ボランティアセンターと自治会の福祉活動の役割やコンセプトの違いをイメージできた。
- 各地域の特性に応じた活動がされており、お互いのやり方を参考にできるよい機会だった。ケアマネジャーとして、参加できてよかった。



第1回に引き続き、関西学院大学准教授の柴田学先生にコーディネーターをお願いしました！

第1回の際にもお伝えしましたが、こうして市内の全地区に第2層協議体があり、このような交流会があること自体が素晴らしいことだと感じています。それぞれの地区らしさを踏まえ、自分たちが自分たちの地域をどうしたいか、話し合っていける第2層協議体を期待しています。

地区らしさを活かした地域づくりを進める協議体『第2層協議体』

